

## 様々な期待を担う林道～森林基幹道「大骨線」の紹介～

岩手県沿岸広域振興局農林部森林保全チーム

### 1. はじめに

岩手県の南東部に位置する釜石市は、東は太平洋に面し、陸中海岸国立公園の美しいリアス式海岸が広がり、西は広大な北上高地で、その南西部には五葉山(1,351m)を主峰とする五葉山県立自然公園が広がっています。市の全域を通じて急峻な地形が多く、市の面積の約9割を森林が占めており、交通道路網を見ても、難所となるような峠が少なくありません。

そのような釜石市をかつて全国に知らしめたのは「製鉄とラグビー」ですが、最近では、間伐後の林地残材を燃料として火力発電所に供給する木質バイオマスエネルギーへの積極的な取組が、森林資源の活用による雇用創出や地域経済の活性化を目指した先進的事例として注目を集めつつあります。

### 2. 路線の概要

「大骨線」は、釜石市の北東部にある鶴住居町を起点とし、北上高地から太平洋へ連なる分水嶺を大骨峠トンネルで貫き、終点の釜石市両

石町に至る総延長5,437m、幅員5.0mの森林基幹道(自動車道1級)で、平成11年度から平成15年度にかけて全線舗装で整備されました。

森林資源の状況は、利用区域が227ha(うち針葉樹104ha、広葉樹123ha)、森林の蓄積は40,259m<sup>3</sup>(うち針葉樹19,779m<sup>3</sup>、広葉樹20,480m<sup>3</sup>)で、人工林の面積割合は51%、針葉樹人工林に占める保育対象林の面積割合は56%で、間伐を中心とした森林整備の必要性が高いエリアとなっています。

### 2. 多面的機能の発揮

釜石市の太平洋沿いには国道45号が南北に縦貫していますが、鶴住居町と両石町の間には「恋ノ峠」という交通の難所があり、大骨線は、ここが事故などで閉鎖された際の唯一の迂回路として機能してきました。

また、釜石市では、永遠に緑豊かなまちであることを願う象徴として、沿線の森林の一部を「千年の森」として指定し、地域住民や自然愛



図-1 岩手県内市町村図



図-2 大骨線位置図「国土地理院の数値地図25000  
(地図画像)『小佐野』を掲載

護少年団などと連携し、草刈りや看板設置、遊歩道整備、環境学習・自然観察会などを実施しており、そのためのアクセスとしても利用されています。



写真-1 H22.8.25 迂回路としての大骨線の状況

そのほか、釜石市で忘れてはならないのが林野火災に対する防災機能（防火帯や消火活動拠点）です。秋から春にかけて空気が著しく乾燥するため、市内では周期的に大規模な林野火災が発生しており、平成 20 年 4 月には唐丹町荒川地区において 151ha が、また、昭和 62 年 4 月には東前町を出火場所として 392ha が被害を受けています。

唐丹町荒川地区の林野火災では林道荒川線などが防火帯や消火活動拠点としての機能を発揮し（写真-2 参照）、東前町を出火場所とした林野火災では、その直後に早期復旧と防火帯を兼ねて林道が建設され、その後同箇所で大規模な林野火災は発生していません。

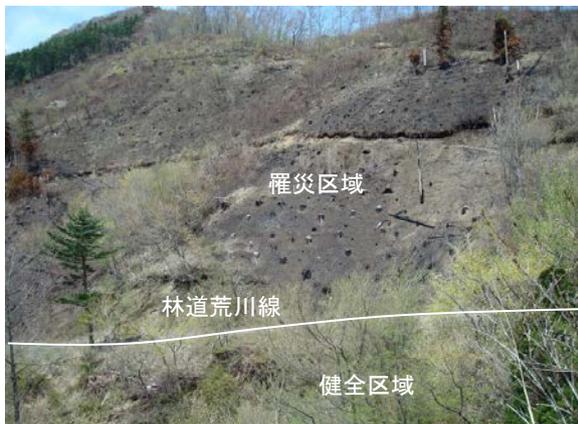


写真-2 唐丹町荒川地区林野火災で発揮された林道の防災機能

そのようなことから林野火災に対する防災機能は、大骨線に求められる大きな役割の一つと言えます。

### 3. おわりに

釜石市では、大骨線を含め 29 路線（60,707 m）の林道を管理しており、それらの維持管理は直営方式により実施されています。直営方式のメリットは、経費の節減と、雇用創出効果が挙げられます。そのような取組を含め、大骨線の管理主体として、平成 22 年度林道維持管理コンクール（日本林道協会主催）では日本林道協会会長賞を受賞しました。

森林に囲まれ、地形の急峻な釜石市では、林道のインフラとしての重要性は非常に高く、維持管理の重要性も同様です。今後も維持管理が適切に実施され、林道の多面的機能が高く発揮されることを期待しています。



写真-3 大骨線における維持管理実施状況